



「重点支援DMO」（特定テーマ型）に認定

一般社団法人秋田犬ツーリズムは昨年度に引き続き、観光庁より「重点支援DMO」に認定されましたことをご報告いたします。

観光庁は、2021年4月23日から5月21日にかけて公募を行い、有識者等による審査を踏まえ、今般、観光地域づくり法人（DMO）の中から、インバウンドの誘客等に向けて支援を強化すべき「令和3年度重点支援DMO」を37法人選定しました（昨年度選定された32法人に加え、5法人を新規で選定）。

東北では6（秋田1、岩手3、山形1、宮城1）、秋田県からは唯一の認定になっています。

また、上記37法人については、3つの類型（「総合支援型」19法人、「特定テーマ型」7法人、「継続支援型」11法人）に分けて、よりきめ細やかな支援が観光庁により実施されます。

今回認定を受けた特定テーマ型は、インバウンドの誘客の強化と並行して、国内誘客を進めるべき、または着地整備において取り組むべき課題があると考えられる一方で、特定のテーマについて特色のある取組が認められ、他のDMOへの横展開を進めるべきお手本となるものとして選定を受けます。

今後とも魅力的な観光地になるべく地域と一丸となって「観光地域づくり」を推進して参ります。

【観光庁HP】 https://www.mlit.go.jp/kankocho/topics04_000155.html

L'anneau de Jomon（ラノウドゥジョウモン）販売開始！

株式会社かつの観光物産公社 DMO 推進室、秋田内陸縦貫鉄道株式会社、やってみよう！北秋田（北秋田地域素材活用推進協議会）と連携し、今年7月にユネスコ世界文化遺産に登録となった北秋田市の伊勢堂岱遺跡、鹿角市の大湯環状列石に共通する特徴であるストーンサークルをモチーフにした縄文コンセプトのお菓子を開発しました。

上記の2つの遺跡で合計6つのサークルがあることにちなみ、フィナンシエ生地の焼きドーナツの6個入りで、それぞれクルミ・栗・ぱっけ味噌・小豆・よもぎ・山ぶどうの6種の味になります。

名前のL'anneau de Jomon（ラノウドゥジョウモン）は、「縄文の環」という神秘的な意味合いがあり、フィナンシエというフランス由来のお菓子をベースにしていること、インバウンド回復期の欧米人にもわかりやすいものとするなどを理由に、高級感やスタイリッシュな雰囲気をもち「他の人に贈りたくなる」お菓子を目指してこの名前を採用しました。

北秋田市のふみきり野 Cafe 様と鹿角市の石川菓子店様の共同レシピ開発で、当面の間は石川菓子店様で全て製造・販売して参ります。また、パッケージデザインは北秋田市の成文社様です。

10月2日から3日にかけて秋田駅で先行発売し、10月9日から秋田内陸線阿仁合駅、鷹巣駅（北秋田市）・道の駅あんたらあ（鹿角市）・道の駅おおゆ（鹿角市）で好評発売中です。



▶L'anneau de Jomon

秋田県産生枝豆のシンガポール輸出

昨年度、中小企業庁の「JAPAN ブランド育成支援事業」の補助を受けて開拓したシンガポール向けの輸出ルートを活用し、継続して秋田県産の生枝豆の輸出に取り組ましました。

輸出にあたっては、沖縄の輸出商社である株式会社萌すと大館郵便局のご協力のもと、鮮度の劣化が最小化されるように輸送しております。輸出用の枝豆は、株式会社ファーム畠山、佐藤ファーム、株式会社たかのすファームから「さや枝豆」、大館市比内町の本間武夫氏、陽気な母さんの店株式会社から「枝葉付き枝豆」をそれぞれ直接仕入れております。

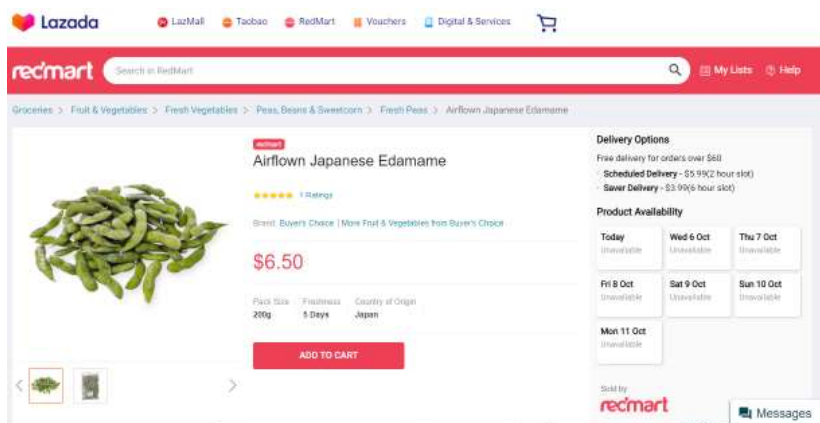
今年度の輸出は、8月12日から10月1日までに収穫された枝豆で実施しました。

同国の新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現地大手ECサイト「redmart」で、さや枝豆の販売のみとなりましたが、合計で169kgの生枝豆の輸出を達成いたしました。（昨年度は鮮度検証用の輸送込みで176kgの輸出）

現地で流通している冷凍枝豆にはない瑞々しさや香り等で一定の評価をいただいております。

一方で、それだけでは価格と価値のバランスが取れないといった課題もみえております。

これまでの輸出実績や現地からの声を整理し、生産者・関係機関等と協議・解決を図り、シンガポールにおける旬の食材としての定番化と秋田県産の枝豆のブランド価値向上を目指してまいります。



▲ redmart での大館・北秋田産生枝豆の販売ページ

駅弁文化と秋田県産品の輸出を目指して

株式会社花善が取り組むフランス・パリリヨン駅での駅弁ショップ事業に協力し、同社とともに日本独自の食文化である駅弁や地域ブランドである鶏めしの認知度の向上を目指します。

フランス国内では、弁当（Bento）の認知度が高く、パリリヨン駅はEU諸国につながる長距離列車のハブとなっていることから、駅弁の需要も高いと考えられるため、同駅から駅弁と駅弁文化を発信することで、フランスにおける市場の拡充と駅弁の本場日本への訪日につながると期待しております。

また、フランスへの輸出を目指す県内企業12社で組む「チーム秋田」の一員として、物産展の開催やマーケティングを通じて、地域産品を広くPRし、輸出可能性を探ってまいります。



▲秋田弁当



▲チーム秋田団結式(10月13日)

第7回北東北DMO連携会議の開催

9月27日に第7回北東北DMO連携会議を小坂町で開催し、十和田奥入瀬観光機構、八幡平DMOにご出席いただき、各DMOの活動状況や地域の現在状況等を情報交換いたしました。

会議後は、小坂まちづくり株式会社様のご協力のもと、小坂七滝ワイナリーやワイン用のぶどう畑を見学したほか、ワインソムリエの小西 亨一郎氏をお招きし、ペアリングセミナーを実施するなど、参加DMOへ小坂七滝ワインのPRを行いました。

ALL 秋田 旅行エージェントオンライン商談会への参加

9月30日に開催されたALL 秋田 旅行エージェントオンライン商談会に、大館市まるごと体験推進協議会、秋北バス株式会社、株式会社花善とともに参加し、首都圏を中心とした旅行エージェントに対して当地域のアクティビティなどを紹介いたしました。

エージェントからは最新のアクティビティの情報や各スポットの紅葉の見頃、秋田犬の里などについて広く質問を受けました。



▲オンライン商談会の様子

SDGs セミナー 開催

地域の事業者様を対象としたSDGs セミナーを10月8日に開催し、合計で54名が受講しました。

講師として東北地方ESD活動支援センター チーフの鈴木美紀子氏、環境省東北地方環境事務所環境対策課廃棄物対策等調査官の原田和昭氏をお招きしてご講演いただいたほか、参加者によるワークショップを行い、互いに理解を深めていただきました。

「持続可能な開発目標」と訳される、国連サミットで採択された国際目標SDGs (Sustainable Development Goals) は近年「新たな旅のスタイル」への意識の高まりと相まってその重要性が高まっています。

当セミナーをきっかけに地域の事業者様がSDGs への理解を深め、事業等に活用していただくことを期待しております。

秋田インバウンドガイド育成ワークショップ

ウィズ・コロナ時代において、密を避けるための旅行形態への変化が予想される中で、豊かな自然・文化に恵まれる秋田県北部の観光資源を活用した旅に期待が高まっています。

秋田北部を含む東北地方の本質を深く理解し、海外からのゲストに対してこの地域を英語で案内できるガイドを育成することを目的に、株式会社M&Companyの白石実果氏と、株式会社キャニオンのマイクハリス氏を講師として招き、「秋田インバウンドガイド育成ワークショップ」を開催しております。

全4回で実施する本ワークショップは、秋田・東北地方での海外客向けガイドやアドベンチャーツーリズムへの関心がある49名の応募者から選考した5名を対象に、オンラインとフィールドワークにて実施するものです。

これまで第1回目(9月)のオンラインセミナーが行われており、第2回目となる10月11日から13日にかけて、マタギ文化を学ぶアウトドアフィールドワークを内容に、プロガイドによる英語ガイディングが行われました。

本ワークショップ受講後秋田犬ツーリズムの公式ガイドとして登録され、今後当地域のインバウンド客に対しガイドサービスを提供いたします。

来たるインバウンド回復期に向けて、海外からのゲストの受け入れ準備・対応できる体制を引き続き整えてまいります。



▲ワークショップの講師と参加者

東北観光推進機構フェニックス塾への協力

広域DMO東北観光推進機構が主催する観光人材育成の取り組み「フェニックス塾」が10月15日から16日にかけて大館市で開催され、塾生33名が参加しました。

昨年度に引き続き、当法人から1名を塾生としてフェニックス塾に派遣しております。

16日のエクスカージョンでは、当法人の取り組みについて紹介させていただき機会をいただき、事務局長の須賀が登壇いたしました。

その後、秋田犬会館、桜櫓館、ふるさわおんせんの見学、昼食では本場大館のきりたんぼ鍋がふるまわれるなど、短い時間ではありましたが大館の観光コンテンツを体験していただきました。

外国人技能実習生向けツアーの催行

大館市からの受託事業として、10月16日から17日にかけて藤嶋鉄工株式会社(大館市餅田 会長:藤嶋鐵男)・株式会社田代製作所(大館市岩瀬 会長:山内鉄也)で働くベトナム人技能実習生計7人を対象に、秋田犬ツーリズムエリア内の1泊2日にわたるツアーを実施いたしました。

このツアー造成は①域内観光産業の活性化、②技能実習生の地域社会に対する理解・参加意識の醸成、③地域社会が外国人を迎え入れる「多文化共生社会」の確立を目的としています。

期待される効果としては、以下の事柄を想定しています。

①新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う移動制限で、旅行者、特に海外からのインバウンド客を呼ぶことは当面期待できない中、大館市に居住する「外国人技能実習生」を対象にしたツアーを組み、域内の観光産業活性化を目指します。技能実習生は一定の日本語能力を要求され基本的な日本語を解するので、観光事業者も受け入れやすいと考えられます。

②外国人技能実習生は、普段は地域社会と触れ合い、その土地の良さを実感する機会を持つことが難しく、これを機にこの地域を知り、日本や秋田を好きになり、経済成長の続く母国にその良さを情報発信してもらう良い機会になります。将来的にはインバウンド訪日客として再来日していただくことも期待できます。

③受け入れる企業・住民が、外国人技能実習生を地域社会の中の重要な構成要員として認識し、福利厚生観点からも、多文化共生社会の一員としてあたたかく迎え入れる素地が醸成されます。



▲高橋さんのガイドを受ける一行(康楽館)



▲人気が高いりんご狩り体験(陽気な母さんの店)



▲中山そば打ち体験



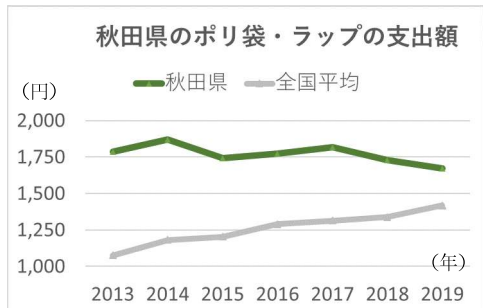
▲当日は雪が降った森吉山

～エコは身近なものから～

SDGsを調べたところ、現在800万トンものプラスチックが海に流され、身体への影響も懸念されている実状を知りました。さらに右のグラフから、今後秋田県のプラスチック排出量が多くなるのではないかと予測しました。

そのことを踏まえて、全校生徒と教職員に環境保全に関する意識調査を行ったところ、環境保全に関心のある人が多いにもかかわらず、プラスチックごみへの意識は低いことが分かりました。

そこで身近なものを使ったエコ活動に興味を持ってもらうために、地元素材を使った食品用ラップの削減として、「みつろうエコラップ」の啓発活動を始めました。



出典：地域の入れ物

～エコロジーとエコノミーに貢献～

エコロジーの活動として、みつろうエコラップの作り方動画作成、学校祭での啓発活動、体験工房開催、地元のラジオ出演などを行いました。本校生徒や職員、保護者の方を始め多くの人に、みつろうエコラップを通して、楽しみながらできる環境保全について伝えることができました。



ボランティアに参加



体験工房の様子



地元のラジオに出演

エコノミーの活動としては、地元の養蜂場と協力し、廃棄予定の蜂の巣をいただいて自分たちで精製してみました。これから地元で採れる蜜蝋を使ったみつろうエコラップを作り、養蜂場の宣伝と環境保全活動していく予定です。



みつろうエコラップ

抗菌・保湿効果があり、食品の鮮度を保つことができます。水洗いで繰り返し使用でき、塗り直しで再生可能なので、資源の節約にもなります。布の模様がそのまま出るので、食品を華やかに魅せることができ、話題性もあります。

みつろうエコラップを使用した様子▶



まとめ

この活動の中で、地元には“環境保全活動”を通して地域興しをしている方がいること、また、地元産の蜜蝋を入手できることがわかりました。地元大館活性化とSDGsを意識して、これからも活動を続けていきたいと思えます。